

豊川小だより

6月号

令和7年5月30日
北区立豊川小学校
校長 中村 順子

ホームページ
QRコード



命より大切なものはない
～6月はふれあい月間です～

校長 中村 順子

「おはようございまーす!」。毎日大勢の児童が、豊川小学校の門から元気に登校してきます。その後学習をしたり友達と遊んだり1日を過ごし、午後には「さようなら!」と言いながら家に帰っていきます。——当たり前すぎて、日々何の疑問も感じない、それを「日常の光景」と言うのでしょうか。

ある日突然、それが奪われる、そのようなことは誰も考えたことがないと思います。先日私は、拉致被害者家族会代表である横田拓也さんの講演を伺う機会がありました。横田さんは、47年前に北朝鮮に拉致をされた横田めぐみさんの弟さんです。家族会で唯一存命されている母の横田早紀江さんを支え、現在は仕事の傍ら、拉致被害者家族会の代表として、被害者の帰国のための活動をしていらっしゃいます。

*

横田めぐみさんは、中学1年生だった47年前、バドミントン部の部活を終えて徒歩で数分の自宅に向かっていたときに消息を絶ちました。めぐみさん、そして横田さん一家にとっての「当たり前の日常」が、何の前触れもなく途切れた瞬間です。拓也さんは、「ひまわりのような存在の姉がいなくなったことで、家の中は火が消えたようになってしまった。」と話されていましたが、命を引き裂かれたとも言わなければならない横田さんご家族の心痛たるや、私たちの想像を絶するものであったに違いありません。拉致問題は、これほどの長い年月が経っているにもかかわらず、残念ながらまだ解決を見ていません。拓也さんは、講演を聞いた私たちに「拉致問題を歴史の1ページとして埋もれさせるのではなく、現在進行形の事案であることを、多くの人たちに広めていただきたい。」とおっしゃっていました。2時間ほどの講演を伺い、私は本当にその通りだと強く感じ、会場を後にしました。

*

当たり前の日常を過ごすことができる幸せは、児童みなに保証されなくてはならないと考えています。もちろん、多くの児童同士と一緒に過ごしていく中では、互いの気持ちがすれ違ったり、ボタンの掛け違いでトラブルが起こったりすることはあるでしょう。しかし、そのようなことも含め多くの経験をしていく中で、相手の気持ちを推し量ったり、みんなで作り上げていくことの充実感を味わったりして、子供たちは成長していきます。「ふれあい月間」である6月は、相手を尊重し、また自分も大切にすること、すなわち「命より大切なものはない」ことについて、改めて学び合う期間にしたいと考えています。

*

* *

*

今年度の運動会は以前よりご案内の通り、5月31日(土)に明桜中学校をお借りしての開催となります。そのため、本番は練習通りにいかないことが多くあると想定されます。この場を借りてお詫び申し上げます。

一方、明桜中学校の広い校庭をお借りできることで、例年以上の多くの保護者の方々や地域の皆様からたくさんのお励ましやご声援をいただくことが可能となりました。「創立150周年記念大運動会」が、スローガン通り「全力全開! 世界一熱い大運動会!」として、子供たちは全力を出し切り、そしてやり遂げる場となることでしょう。

開催にあたりまして多くのご理解ご協力をいただきました保護者や地域の皆様、そして明桜中学校菊池校長先生を始め関係する皆様には、改めて心からお礼申し上げます。



【明桜中学校の校庭での練習風景】